

まずは診断！

事業の未来を描くための準備

23-008号

通巻:247

今回は、将来後継者に事業を託すことや第三者に事業を引き継ぐことに向けて、こういった準備に取り組む必要があるかを把握し、準備計画づくりや準備状況の確認を等の方法を紹介します。

①事業承継自己診断チェックシート

Q.1

事業承継計画を策定し、中長期的な目標やビジョンを設定して経営を行っていますか？

はい いいえ

Q.2

経営上の悩みや課題について、身近に相談できる専門家はいますか？

はい いいえ

【以下の中から、当てはまる設問へお進みください】

- ・私には後継者がいる(子ども、親族、従業員)・・・★へ
- ・私には後継者にしたい候補がいる(子ども、親族、従業員)・・・Q.6～Q.7へ
- ・私には後継者がいない・・・クラージュ総合会計事務所にご相談ください

★後継者に対し将来会社を託すことを明確に伝え、後継者として事業を引き継ぐ意思を確認しましたか？

「はい」・・・Q.3～Q.5へ 「いいえ」・・・Q.6～Q.7へ

Q.3

後継者に対する教育・育成、人脈や技術などの引継ぎ等の具体的な準備を進めていますか？

はい いいえ

Q.4

役員や従業員、取引先など社外の関係者の理解や協力が得られるよう取り組んでいますか？

はい いいえ

Q.5

法務面や税務面、資金面などについて将来の承継を見据えた対策を進めていますか？

はい いいえ

Q.6

後継者の正式決定や育成、ご自身の退任時期の決定など、計画的な事業承継を進めるために必要な準備期間は十分にありますか？

はい いいえ

Q.7

後継者候補に承継の意思について打診をする時期や、ご自身がまだ打診をしていない理由は明確ですか？
(候補者が若く、打診するには早すぎる 等)

はい いいえ

中小企業庁「経営者のための事業承継マニュアル」より抜粋

クラージュ総合会計事務所・クラージュコンサルティング

〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル505 Tel. 06-4705-0011 Fax. 06-4705-0021

<http://courage.gr.jp/>

②診断結果

手つかず状態

Q.1 Q.2 で、1つ以上「いいえ」と回答した方

事業承継を円滑に進めるには長い時間を要します。早期着手の重要性を理解し、事業承継に向けて現状の把握を進めましょう。

具体的には、事業承継に向けた自社の経営課題等を検討することとなります。

その際には、自社の業務プロセスや顧客に提供している価値はなにか等、「課題の見える化」がポイントとなります。

専門的な知識が求められることもありますので、支援機関や専門家への相談を検討する必要があります。

後継者有！

Q.3 Q.4 Q.5 で、1つ以上「いいえ」と回答した方

円滑に事業承継を進めていくために、事業承継計画の策定による計画的な取組が求められます。

事業承継までのステップに基づいて支援機関や専門家の協力を得ながら取り組みを進めることが重要です。

ステップ1:事業承継に向けた準備の必要性の認識

ステップ2:経営状況・経営課題等の把握

ステップ3:事業承継に向けた経営改善

ステップ4:事業承継計画の策定/マッチングの実施

ステップ5:事業承継の実行/M&Aの実行

具体的な取組のチェックシートについては当事務所で保有しています。

後継者有
迷い中

Q.6 Q.7 で、1つ以上「いいえ」と回答した方

企業の存続に向けて、具体的に事業承継についての課題の整理や方向性の検討を行う必要があります。

後継者が正式に決定するまでには、数年以上の期間を要する場合があります。

なるべく早く、後継者候補の意思を確認し、後継者の育成に必要な時間を十分に確保することが重要です。

具体的には、自社の事業承継計画を検討し、どの程度の準備期間が必要か考えていくこととなります。

～コメント～

以上が診断結果となりますが、チェックシートはいかがでしたでしょうか？

Q1, Q2で「いいえ」とお答えされた経営者の方も多いのではないのでしょうか？

そこで、事業計画や長期的な目標等につきましては、「特例承継計画」の策定をお勧めします。

数値の入った計画は要求されておらず、また事業承継税制のエントリーとなります。

当事務所は認定経営革新等支援機関であるので、多数の申請実績がございます。

是非一度ご相談いただければ幸いです。